

令和六年度 奈良県教育長賞

税金のしくみと納税方法

生駒高等学校2年 市川 英奈

私は中学生のとき、税金について社会の授業で勉強しました。そしてその内容は、税金がどのようなところでいくらい使われているのかとか、どのような役割を果たしているのかとか、税金の種類とか、歳入と歳出のしくみとか、税金の歴史といったものです。

大人になると税金は身近なものになるのかもしれませんが、今の私にとって税金は、仕事をするとか払わないといけないものだけど、どうやって納税するのか方法がわかりません。納税は国民の三大義務にもあるのに、なぜ税金を納める方法については学ばないのだろうと疑問に思いました。

私の父は会社員です。父に聞くと、税金は、毎月のお給料から先に引かれて会社が代わりに納税してくれているということでした。母に聞くと、私の母は個人事業主なので、税金は毎年自分で確定申告をして納税しているということでした。同じ納税なのに、方法が違うということを知り、インターネットで調べてみると、国税庁のホームページには「国の税金は、納税者の一人一人が自ら税務署へ所得等の申告を行うことにより税額が確定し、この確定した税額を自ら納付する申告納税制度を採用しています。」と書かれていました。私は正直とても驚きました。自分で申告することの方が基本だと知ったからです。

さらに母に、確定申告の方法をどこで学んだのか質問してみました。母は会社員のときに簿記を学んだ経験があり、確定申告の方法も自分で学んだと教えてくれました。そして、申告納税制度のことを知らずに、正しく納税していない人や、逆にアルバイトなどで先に勤め先から税金を納めているのに、会社員のように一年分の所得税の過不足を精算する手続きである年末調整がなく、税金を払い過ぎてしまっていることを知らない人もいるということを知りました。

もちろん、税金がどのようなところでいくらい使われているのかとか、どのような役割を果たしているのかといったしくみを学ぶことも大切ですが、一番のスタートである納税の正しい方法を学ばずに社会人になるのはとても不安だと感じました。

会社員ばかりの社会なら、会社が納税や年末調整をしてくれるので、納税の方法を知らなくても大丈夫なのかもしれませんが、今は働き方がどんどん多様化していると思います。公共サービスや公共施設の提供に必要な費用をみんなで出し合って負担しているのが税金なのだから、納税者の一人一人が自分で申告するという基本的なことができるように公教育で納税の方法を学べるようになったほうが、より公正だし、どんな仕事に就いてもきちんと納税の方法を知っていた方が安心できるのではないかと感じました。